

1982瀬田貞二（1916-1979）／落穂ひろい、福音館書店

1971-1975雑誌／母の友に連載

日本の子どもの文化をめぐる人びと

赤本、双六、おもちゃ絵

はじめに

子どもの情感、子どもの生活をこまやかに見て、その喜びを喜びとしたような人々の系列。詩人と庭師。柳田國男。

芸能史：地方史、部落史、女性史、こどもの歴史。

宮本常一／家郷の訓（おしえ） 塚本伴治／竹馬一明治の子供の遊び

第一章 京から江戸へ (p.7)

一 往来物 (p.9)

創始者：北畠玄恵（1269-1350） 庭訓往来、喫茶往来、遊学往来 庭訓（ていきん）は家庭教育 往来は往復書簡

消息文に挿絵（図解）を加えた

その影響：

虎関師錬？（1276--1347）／異制庭訓往来 *当時の風俗を伝えている。

尺素（せきそ）往来： 今川了俊（1325-1420）／今川状（教訓的な手紙） *尺素（せきそ）は手紙の意

一条兼良（1402-1481）

二 お伽草子 公家（くげ）物、僧侶、武人伝説、庶民小説、異類（いるい）

柳田國男：足利時代、一般大衆の生活、習俗が始まった。狂言という劇文学

お伽草子の群れ：平民、子供の文学 500余種 平安は物語 鎌倉は軍記 室町は草子（そうし） 幸若舞、謡曲

その作者たち：僧、公家、武家 芸能者 浦島太郎、一寸法師、瓜姫物語、鉢かづき姫、物ぐさ太郎

鉢かづき：継子（ままこ） 山場のある筋を得た、ドラマチックなストーリー

草子（物語本）を語り、それを聞くということからすれば、肉声を文字に止める原初的な働きを、手描き絵本という素朴

新しい読者たち： 正月書き初めの次、草子の読み染めとして、女子は文正草子を読んだ。長寿、公家に昇格、神仏に現れる

三 絵巻と奈良絵本 *巻き戻すのが大変 法帖、粘葉（でっちょう）装

・絵巻物のはじめ：源氏物語絵巻、鳥獣戯画、信貴山（しぎさん）縁起、伴大納言絵巻

・平安絵巻者のよき：1170c藤原隆能／源氏物語絵巻

・鎌倉時代の絵巻物：常盤（ときわ）光長（1086-1185）／伴大納言絵巻、信貴山縁起、年中行事絵巻、吉備大臣入唐絵詞

1219北野天神縁起 縦52cm 大画面

1230c成忍（じょうにん）／華嚴縁起

1250s西行物語絵巻

1299円伊／一遍聖絵（いっぺんひじりえ）

1309高階隆兼／春日権現験記、現状三蔵絵、石山寺縁起

・室町時代へ：1376飛騨守惟久／後三年合戦絵詞、長谷雄草紙 *伝記的な題材で、お伽草子の世界

室町時代、十二類合戦絵巻、福富草紙の二点

お伽草子の絵巻物は300を超えている。

1414土佐行広／融通念仏縁起 1438十二神絵（畜類歌合）（貞成親王の日記）

福富草紙は放屁爺の昔話を絵巻者にした、絵画化第一号

1487土佐光信 (1434-1525) (92) / 星光寺縁起

1517土佐光信/清水寺縁起 *光信の子・光茂、その子・光元は1543 (14) で戦死

・奈良絵と奈良絵本：戦乱、政情不安で、奈良の興福寺、春日神社の絵所は無くなった

奈良絵本 間似合紙 (まにあいがみ) で、泥絵の具の緑、藍、赤で塗った、胡粉、 100年間ほど売り広められた

・その庶民的な美しさ (p.48)

1526 (大永6) 松姫物語絵巻 稚拙な線描が初々しい

1520s飛鳥井栄雅卿息女/扇合物がたり (花鳥風月)

・初期大型奈良絵本とその後 従来の絵巻物を簡便な冊子 縦30cmの大型絵本

飛鳥井雅俊 (書)、光信 (画) / 花鳥風月物語

南都連歌師紹九 (筆) / 岩屋草子、

和州十市殿遠忠/熊野の本地 (天理図書館)

1593 (文禄4) (花鳥風月 (高安本) *消失 赤と緑の岩絵の具

熊野の本地/杭全 (くまた) 神社 三冊本を絵巻物に仕立てた。

1624-1644 (寛永期) 次第に横長本になり、常套月並みの奈良絵になる

1688-1704 (元禄期) この頃まで、贅沢な嫁入り本 (横本) として賤われた

1716-1736 (享保) 渋川清右衛門/御伽草紙 (室町短編二十三篇) (横本) *大坂 *お伽草子は終わった

1891 (明治24)

1895 (明治28) 巖谷小波 (さざなみ) / 日本昔噺 二十四冊

四 初期刊本 (p.52)

・きりしたん版イソップ

1590 (天正18) フリニャーノが少年遣欧使節を日本へ連れ帰った。イタリアの印刷機を加津佐 (かずさ) のコレジオ (学林) に据えた。

やがて天草に移され、20年間、約50種の本を印刷。今、残るのは28種で、キリシタン版、天草本と呼ばれている。

・1592平家物語

・1563伊曾保物語

・仮名草子の登場

・1593古文孝経 朝鮮からの銅活字本 日本では木活字本として寛永まで刊行された

・1602 (慶長7) 太平記 (片仮名まじり木活字)

・1615-1624 (元和) 竹齋 (ちくさい) 藪医者と従者の東海道くだり *仮名草子の後、1682 (天和2) 西鶴/浮世草子

・1624-1644 (寛永) きふはけふの物語

・1682 (寛永5) 安楽庵策伝/醒睡笑 (せいすいしょう)

・もう一つのイソップ

(元和、慶長末) イソップ物語 文語訳 仮名草子 *天草本とは別

*キリシタン版ローマ字イソップと仮名草子日本字イソップの両者のもとになった親版イソップがあった

・挿絵本の発生一嵯峨本 角倉素庵 (1571-1632) (すみのくら) は本阿弥光悦 (1558-1637) から茶事、書を学んでいた

勅版の活字本に心を動かされて、善美を尽くして、謡本 (うたいほん) を制作 角倉本 (光悦本) 20余種を刊行

・1608 (慶長13) 中院道勝/伊勢物語 日本で初めて挿絵が付けられた。また「三十六歌仙」 (版面下半に肖像画)

二十四孝（御伽草子本）

・丹緑本（たんろくぼん）の世界

1592-1614文禄、慶長 大型の極彩色縦長の奈良絵本

1615-1623元和 嵯峨本に影響されて、浄瑠璃、舞の本に挿絵が付けられる。

1624-1643寛永 次第に挿絵が定着

1610s-1660s慶長末 寛永 万治 一刷毛（ひとはけ）の筆彩色

朱、緑、黄（上下の雲、土坡、着衣）／柿色の丹、白緑（びやくろく）、紫（灰あずき色）

・教化的な読みもの 活字は手間が掛かるので、一丁全面を製版する。

・1627（寛永4）富士の人穴 *丹緑本で初めて製版

・1638（寛永15）朝山意林庵（1589-1664）／清水物語（きよみずものがたり） *儒教の啓蒙書 3,000部、売れた

・1638松江重頼（1602-1680）／毛吹草 *糸屋 俳句のための諸国物産、諺 *西山宗因が弟子入り、更に西鶴

・1650（慶安3）安原貞室（1610-1673）／かたこと *鑑屋（かぎや） 京都方言、日常語

・1658-1660（万治）仮名草子 貞徳門下の人々が教化的な本

・1658-1660（万治）浅井了意／東海道名所記 堪忍記 如儡子／可笑記 中川喜雲／私加多咄 京童 辻原元甫／知恵鑑

・1652（承応1）つれづれなぐさみ草

・1657（明暦3）山岡元隣／他我身之上（たがみのうえ） *季吟門

・1661（寛文1）雛屋立圃（りゅうほ）／十帖源氏 をさな源氏

・1673（延宝1）北山季吟（1624-1705）／源氏物語湖月抄 *芭蕉が弟子入り

・はじめての子ども絵本

（水谷不倒）上方（かみがた）文学には、子供の額分が極めて少ない。

・行成（こうぜい）表紙本 紗綾形（さやがた）、毘沙門亀甲、つがる牡丹、龍の丸

1662（寛文2）ねずみのこうさく *赤本時代の前触れ

1682（天和2）たからねずみ

1682（天和2）好色一代男 仮名草子は浮世草子と名前を替える

・公平（きんびら）浄瑠璃

五 江戸の本屋 (p.64)

・江戸に出た本屋

松会（まつえ）市兵衛 大型絵本 二十四孝は天下の珍書 *まつがい

江戸、1850頃、書物問屋83軒、地本草紙問屋146軒、貸本屋700軒 上方を圧倒した

・公平本（きんびらぼん）の影響 *坂田金時の子供、公平（きんびら）を創案した。

鳥居派の芝居もどき 吉田半兵衛（西鶴本） 菱川吉兵衛（のちの師宣） 桃太郎話（瓜子姫の瓜が桃）（大江山が鬼ヶ島）

・目でみる百科

1666（寛文6）中村惕齋（1629-1702）／訓蒙圖彙（きんもうづい） *てきさい 子供のための図解

1667（寛文7）吉原雀

1671（寛文11）八種画譜

1690（元禄3）人倫訓蒙圖彙 *蒔絵師源三郎

1713（正徳3）寺島良安／和漢三才圖会

・儒家教育説二、三

1661中村惕齋 (1629-1702) / 比壳鑑 (ひめかがみ)

1710貝原益軒 (1630-1714) / 和俗童子訓

荻生徂徠 (1666-1728)

雨森芳洲 (1668-1750)

伊藤東涯 (1670-1736) *博学無双

・新しい風俗画集

1667 (寛文7) 師宣? (1618-1694) / 吉原雀

1668 (寛文8) 枯杭集 (かれくいしゅう) 仮名草子に浮世草子の表現を折衷している。

1672 (寛文12) 師宣 (1618-1694) / 武家百人一首

1677 (園方) 江戸雀

師宣の描写は、公平 (きんぴら) 本の生硬さが目立つ。後の西川祐信、石川豊信が子供のしなやかに描いた。

・絵手本の登場

1621-1628梅竹蘭菊四譜、唐詩六言画譜、唐詩五言画譜、唐詩七言画譜、草木花詩譜、木本花鳥譜 (集雅齋、蘇州)

1621-1628名公扇譜、古今画譜 (清絵齋、蘇州) *祇園南海、柳沢淇園、池大雅、謝蕪村

1671 (寛文11) 八種画譜、唐本屋清兵衛 *中国の絵手本 翻刻

1679芥子園 (かいしえん) 画伝

1688-1704 (元禄)

1712林 守篤 / 画筌 (がせん) *狩野派

1748c芥子園 (かいしえん) 画伝 *翻刻

・西鶴の本から *鼠 (ねずみ) の嫁入り

1682 (天和2) 西鶴 / 好色一代男 仮名草子から浮世草子となる *おもちゃが列挙されている

1690人倫訓蒙圖彙

第二章 赤本 (p.77)

一 延宝 (1673-1680) の赤小本 *半紙三つ折

・鼠からはじまる絵本

行成 (こうぜい) 表紙の絵本 桃太郎物語、酒顔度王子、朝顔姫

1662ねずみのこうさく (耕作)

1681鼠年中行事

1682たからねずみ *よろず繁栄、「嫁が君」、などと親しまれていた。大黒の眷属

鼠の嫁入り、人間の結婚生活を、かわいい小動物、ねずみ、に見立て準えた。家内繁盛を寿ぐ (祝儀)

子どもの絵本、年初めに出版された。

・延宝の赤小本 小本 (中本の半分) *中本は半紙の半切

1678 (延宝6) 初春のいわひ、藤田 (本屋) 十三丁 *一名、祝儀ぞろへ

兔の手柄 十二丁 後の赤本は五丁 上の四分の一また五分の一に語句、下欄に絵をあしらう

仙人づくし、名人ぞろへ*、日本むまぞろへ ○○づくし (図鑑) *づくし絵本 *名人ぞろへ、題箋の張り違い

ただとる山のほととぎす（鴨取り権兵衛）、三國宝船始（鼠浄土）、京ひがし山ばげぎつね（文福茶釜） *むかし（物語）絵本

・師宣の影響の下に *二段形式（上に語句、下に絵） *八字眉と顎の長い顔

大和絵づくし、和国諸職絵づくし、団扇絵づくし

異国づくし *名人ぞろへ、この題箋を誤って貼ったか

・昔話絵本のなかから

むぢなの敵討（かちかち山の原型） むぢな（狸） *下巻「うさぎの知略」は遺っていない

イギリスのチャップ・ブック、ドイツのフォルクス・ブーフを凌（しの）ぐのではないか

ただとる山のほととぎす*（鴨取り、奇想が受けた）→1780虚言八百万八伝→1783睦多雁取帳 *上巻のみ

・四季の由来鬼遊 *昔話ではなく、創作絵本 言葉の洒落が散見している。 天上界を取り上げたのは七福神信仰の影響か

突拍子のない呑気さが私たちを和ませてくれる

・享保（1730s）までのはざま

1704c（宝永）源五綱がてがら *武者絵系統の絵本

1706（宝永3） *戌の年 上欄五分の一に界線をひいて、上は文字、下は絵

1711（正徳2頃）あくまばらひの金平

たから船始、福神そが、かくれ里ふく神よめいり *縁起もの

きん平大力 *絵ばかり九丁、子ども用に再編集

1693文正ものがたり 六丁一冊

1712（正徳2）文太ものがあり

・団子の値段

1673-1715（延宝-正徳） 赤本の草創発展 *赤本、おもちゃ絵（狐の嫁入り、墨摺）、延宝に由来する

1716-1763（享保-宝暦） 赤本の絶頂、下降期

1751-1771（宝暦-明和） 一冊五丁（五枚） 六文 *宝暦以前は五文

1772-1788（安永-天明） 八文

1794（寛政6） 十文

1805（文化） 十二文

二 赤本の黄金時代 1

・赤本の黄金時代 (p.91)

・近藤清春の出現 (p.93)

をにの四季あそび 下 (p.107)

むぢなの敵討

ぶんぶく茶釜 (p.112)

さるかに合戦 (p.116)

桃太郎昔話 (p.123)

したきれ雀 (p.128)

はなさきぢぢ老いらくの栄華 (p.131)

・流行をとりいれた赤本 (p.135)

・赤豆本 (p.137)

- ・羽川珍重 (1679-1754) のユーモア *はねかわちんちょう) 実直、謹言。肩衣を脱がなかった
- ・地口と謎

三 赤本の黄金時代 2 (p.145)

- ・奥村政信 (1686-1764)の参加 享保を代表
- ・政信の「花咲翁」 (p.147)
- ・西村重長 (1697-1756)の「さるかに合戦」(p.149)
- ・「狼の婿入」 十二支(えと) 多くの動物が登場、洒落
- ・竹田からくりのこと (p.152) からくり人形
- ・桃太郎の二作 (p.154)

第三章 草双紙その後 (p.159)

一 黒本・青本・黄表紙そのほか (p.161)

- ・黒本、青本、黄表紙
- ・草双紙の変遷と特質 (p.163)
- ・十六むさしのことから (p.165)
- ・子どもの世界 (p.170)
- ・そのほか (p.172)
- ・黄表紙の世界 (p.174)
- ・京伝の一例 (p.175)
- ・天明の狂歌時代 (p.177)
- ・「たから合の記」 (p.178)
- ・南畝の寄与 (p.180)
- ・山東京伝の考証 (p.182)

二 戯作者たちのしごと

- ・馬琴の随筆((p.186)
- ・馬琴創作の一つ (p.188)
- ・種彦の随筆 (p.190)
- ・種彦の子どもむき絵草紙 (p.192)
- ・国学者の著作から (p.195)

第四章 記録された子ども (p.199)

一 幼年記録と漢文戯作

- ・侍の子の読書 (p.201)
 - 森山孝盛 (1738-1815) / 蚤(あま)の焼藻の記。十歳までに素読をしたが、さっぱり分からなかった。仮名本、軍記、浄瑠璃本
 - 鈴木桃野 (1800-1852) / 自述。とうや、父は御書物奉行の鈴木白藤。俗書の黄表紙(合巻、ごうかん)を好んだ。後に、儒学
- ・漢文による民間文芸 (p.203)
 - 岡 白駒 (1692-1767) / 開口新語 *軽口、滑稽話 *はっく 中国文に通じた関西の医師 軽口を簡略謹直な漢文

銅脈（どうみやく）先生（畠中頼母）

寝惚（ねぼけ）先生（南畝）

- ・「奇談一笑」という笑話本（p.204）

岡 白駒／奇談一笑 *実は弟子の西田維則の著書 なぜなぜ話、民話系の話

- ・「合餉（がんとう）記事」の昔話（p.206）

熊阪台州／合餉（がんとう）記事 幼子に餉を与えるように書いた意

- ・「阿保記録」という写本（p.208）

1803（享和3）宗亭／阿保記録

- ・「昔昔春秋」（p.210）

赤井東海（1787-1862）／昔昔春秋 *昔話、伝説を寄せ集めて、黄表紙のようにする

二 俳句・川柳・旅行記

- ・芭蕉七部集（p.213）

榎本其角（1661-1707）

- ・子どもずきの登場（p.216） *前句付（まえくつけ）

柄井川柳（1718-1790） せんりゅう 1765／柳樽（やなぎだる）初編

1773永井堂亀友／小児養育気質（しょうにそだてかたぎ） *布袋屋徳右衛門 非常な子供すぎ 仮設幼稚園

- ・発見としての記録（p.219）

菅江真澄（1754-1829） 大旅行家 日本民俗学の先達

屋代弘賢（1758-1841）／諸国風俗問状

小林一茶（1763-1827）／おらが春

- ・ある父の記録（p.223）

五十一歳で、郷土に戻り若妻を迎え、三子をもうける。三子、次々と死ぬ。六十一歳で愛妻も失う *断腸の記録

三 三馬・一九と行智・茶箱廣重

- ・盛りばへ出かけた作家（p.226） 一九 *執筆のほか、酒ばかり飲んでいて

1796一九／初登山手習方帖（しょうざんてならいじょう） *滑稽作家 写楽を模した風絵

1802-1822十返舎一九（1765-1831）／道中膝栗毛1-12篇

1830一九／金儲花盛場 *新職人尽、狂歌集 滑稽風俗 香具師（やし）図鑑

- ・町にこもった作家（p.230）

式亭三馬（1776-1822）

1802（享和2）三馬／稗史億説年代記 *赤本を知らない時代、赤本を懐かしく思う

1809-1813三馬／浮世風呂

1812赤本再興／桃太郎、花咲翁 *日本小説年表

1813-1814三馬／浮世床

- ・ある坊さんの童唄集（p.233） 行智（1778-1841） 童唄を集めた 悉曇学（しつたんがく、梵語音韻）

梁塵秘抄 *ある遊女「遊びをせんとや生まれけむ、戯れせんとや生まれけん、遊ぶ子どもの声きけば、我が身さへこそゆるがるれ」

良寛

行智／竹堂随筆

・茶箱廣重といわれた画家 (p.235) *子供と一所に遊びたくなる持ちまえ ところて重いが、美しい品格、おっとりした子ども

1854重宣／百人一首かるた 大1x8枚

1857重宣／十二月おきなあそび

1857重宣／昔話一覽圖会 大3

1860二代廣重／友雀道草双六 *友寿々女美知具佐数語呂久 三十七の子供の遊戯風俗 これほど楽しい双六はない

何か御気付きの点があれば御教示ください。

酒井 雁高 (かんこう) 浮世絵・酒井好古堂主人 学芸員 curator

浮世絵・酒井好古堂 浮世絵鑑定家 [浮世絵学] 検索 <http://www.ukiyo-e.co.jp>

SAKAI_gankow, curator, professional adviser of ukiyo-e

文化藝術懇話会

100-0006東京都千代田区有楽町1-2-14

電話03-3591-4678 Fax03-3591-4678

E-mail: gankow